

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態 (講義・演習・実験等) の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導 (院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導 (専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価 (評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

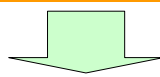
2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 前期課程における教育職員専修免許取得等や高度専門職志望者に対応した探究型の教育方法の開発を進める。	→従来の大学院における教育方法に加えて、高度専門職志望者に対応した教育方法の試行・検討・普及の進捗状況。	C	C			
2. 後期課程 (一部前期課程を含む) における外国語による研究発表支援のための教育方法上の工夫、体制の構築を行う。	→外国語による研究発表を想定した教育方法やスタッフ確保などの支援制度開発の進捗状況。	A	B			
3. 大学院教育にふさわしいシラバスのあり方を検討し、改善を進める。	→大学院教育の目標にみあったシラバスのあり方の試行・検討・普及の進捗状況。	C	C			
4. 修士論文・博士論文執筆にむけた見通しを持ちうる履修・研究計画作成のための支援策を開発する。	→大学院生が論文執筆までの見通しをもった研究計画を策定し、各年度の実施状況の自己点検・自己評価をなすような年次計画書・報告書開発の進捗状況。	B	B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	目標2について、総合心理学専攻心理学領域のネイティブ助教の後任選考が、東日本大震災の影響もあって、難航している。
小項目6.3.2	現状の把握と合わせて、他大学大学院の事例も踏まえつつ、学士課程とは異なる大学院にふさわしいシラバスのあり方を検討する。その際、資格関連科目と研究指導的科目との差異など、科目の特質に配慮した検討も求められる。
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	全学的な傾向であるが、大学院生を対象にした独自の授業評価アンケートの回収率が、回を重ねるごとに低下してきており、2010年度には実に17.7%にまで下落した。その理由のひとつに、夜間研究室が利用できないなどの、施設問題についての年来の要望がなかなか実現されないことに対する苛立ちがあると考えられる。大学全体の問題として施設関連への早急な対処とともに、アンケート実施方法の再検討が必要である。
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	国内・国外の関係学会を通じて、広く人材をもとめる。
小項目6.3.2	上記の検討を進める。
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	上記の検討を進める。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○問題点は、「改善すべき事項」として意識されていますので、今後の改善方策の実施が望まれます。

【学内委員】

○大学院教育における適切なシラバスとはどのようなものかということは、きわめて困難な問題であります。しかし、今の時代ですから、これを避けて通ることはできません。少しでも改善の努力が実を結ぶことが期待されます。

○退職した特任助教(ネイティブ教員)の後任人材難を早急に解決することが望まれます。

○全体にわたり誠実な記述です。

○小項目6.3.1においては、目標の説明だけでなく、要素などを参考に教育方法や学習指導について説明が求められます。

○シラバスの記載内容について記述する必要があるでしょう。

○成績の評価方法・評価基準を明示しているかどうかについて記述する必要があると思いますが、記述内容は的確です。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・前期課程における教育職員専修免許取得等や高度専門職志望者に対応した探究型の教育方法の開発を進めるということが目標として提示されていますが、かかる目標の可及的速やかな実現が望まれます。このような問題がこれからますます重要となることが予想されるからです。また、大学院教育にふさわしいシラバスのあり方の検討および改善が必要であることはいうまでもありません。

【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置(厳格な成績評価など)が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」

達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」(評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。)

・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性

・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み

・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目6.3.1 「教育方法等について」：以下の記述を（説明）の現行の記述の前に加える。

授業形態は、博士課程前期では、演習科目が146(40.5%)、特殊講義科目・一般講義科目が123(34.2%)、研究科目が85(23.6%)、実験科目が6(1.7%)となっており、これらが有効に絡み合ってカリキュラムを形成している。博士課程後期課程では、基本的に必修の演習（研究演習、博士論文作成演習）のみであるが、それを補う形で指導教員による特別研究を設置している。また前期課程開講科目における選択科目の履修が可能となっており、柔軟なカリキュラム体制を実現している。

○小項目6.3.2 シラバスの記載内容について：以下の記述を（説明）の第1文と第2文の間に挿入する。
授業目的、内容・方法、テキスト、成績評価方法・基準、学生による授業評価方法を記載している。